

## 令和5年度

### 劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

#### (地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

### 成果報告書

団 体 名	有限会社プーク人形劇場	
施 設 名	プーク人形劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業	
内 定 額 ( 総 額 )	12,412	(千円)
	公 演 事 業	11,395 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,017 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

# 1. 事業概要

## (1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	世界の人形劇シリーズ ソフィア人形劇場×人形 劇団プーク共同制作公演 「カモメに飛ぶことを教 えたドラ猫の物語」	2023年8月3～5日 8月14・15日	出演者：ブルガリアより俳優2名・ 演奏家1名、人形劇団プーク4名 演出：カティア・ペトロヴァ	目標値	752
		プーク人形劇場/愛知 県芸術劇場・小ホール		実績値	752
2	人形劇団プーク 子どもの 劇場	10月21日～11月23 日/12月23日～1月8 日/2月3日～25日	「霧と風から聞いた話」/「ひとまね アヒル」出演：岡本和彦 他 「12の月のたき火」 出演：山越美和 他	目標値	3,940
		プーク人形劇場		実績値	4,043
3	プーク人形劇場 平和企 画2023 『紡ぐ』	2023年11月25日・ 26日	「河童の道行」作：岡本文弥/出演： 新内 / 三世 岡本宮之助 他 峠三吉 原爆詩集 『序』 ほか7編 舞踊作品 『きらいなうた』 二胡と唄 『はるのうた』	目標値	180
		プーク人形劇場		実績値	236

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	つくって楽しい、劇あそび！人形劇教室	7月7～9日 9月8～10日 8月23～25日 9月16～18日 10月7～9日	講師：石田律子 講師助手：柏木俊彦/今井美佐穂 特別講師：叶雄大	目標値	70
		プーク人形劇場 劇場・5階ホール		実績値	129
2	保育教材実践講座	5月18日、23日 6月8日、26日、30日	講師：荒木文子・和気瑞江・渡辺真知子	目標値	60
		プーク人形劇場 5階ホール		実績値	66
3	人形劇の人形造形の基本	2023年9月12・26日	講師：松山一義・小池俊章 講師助手：高橋ありさ・伊賀昌美	目標値	30
		プーク人形劇場 5階ホール		実績値	30

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価																																																																																
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>																																																																																
<p>プーク人形劇場は、以下のミッションに基づき、当初の予定通りにすべての事業を実施しました。</p> <p>《プーク人形劇場のミッション》</p> <p>【①子どものための文化創造・発信拠点】【②世界とつながる人形劇のナショナルセンター】【③地域の文化拠点】【④地域との連携】【⑤人材育成】</p> <p>「子どもの殿堂」「人形劇のナショナルセンター」「地域の文化拠点」「地域連携」「多様な人材育成」</p> <p>《地域の特性》</p> <p>都内においては、【子どものための劇場・文化施設の不足】が指摘されています。そのような状況の中、プーク人形劇場は、「人形劇によって、人・町(地域)・都市と世界各国をつないでゆく」をミッションの柱として、各事業を計画しました。</p> <p>上記ミッションに基づき、国際交流も含めた「子どもの殿堂」としての多彩なプログラムを計画、「多彩な人材が育ち、育てる人形劇場」として、劇場の機能と財産を最大限活用して事業に臨みました。「人形劇を通じて人と街、都市と世界をつなぐ」を命題として、全事業を予定通りに実施することが出来ました。</p> <p>全国各地に加え、在日・来日外国人も多く訪れていただきました。日本で最初の現代人形劇専門劇場としての「歴史と実績」に基づき、「国内外の沢山の芸術団体とのネットワーク」を駆使。比較的若い次世代スタッフを中軸に添えた事業展開は、他団体には例のないような取り組みとして、内外に発信できたのではないかと、自己分析をしています。</p>																																																																																
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>																																																																																
<p><b>文化的意義:</b> 人形劇団が設立した劇場は、専門性に担保された高い芸術性と企画力を備え、国内の人形劇界をけん引してきたと自負しています。本年度も多彩なプログラムを展開しました。当劇場から発信した作品は、全国巡回公演へと旅立ち、全国各地に質の高い人形劇作品を提供しています。加えて国際交流を通じたプログラムを展開、世界にも当劇場の企画力を発信し続けることが出来ました。</p>	<table border="1"> <caption>プーク人形劇場 年間来場者数(全国地方別)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th>2019年</th> <th>2022</th> <th colspan="2">2023</th> </tr> <tr> <th>来場者(名)</th> <th>来場者(名)</th> <th>来場者(名)</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北海道</td> <td>70</td> <td>20</td> <td>18</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>東北(北)</td> <td>33</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>東北(南)</td> <td>149</td> <td>106</td> <td>97</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>北関東</td> <td>690</td> <td>112</td> <td>66</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>都内</td> <td>11,426</td> <td>14,418</td> <td>15,149</td> <td>74.3%</td> </tr> <tr> <td>南関東</td> <td>5,367</td> <td>3,757</td> <td>3,873</td> <td>19.0%</td> </tr> <tr> <td>中部(東海)</td> <td>619</td> <td>194</td> <td>243</td> <td>1.2%</td> </tr> <tr> <td>中部(上信越)</td> <td>274</td> <td>124</td> <td>110</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>関西</td> <td>304</td> <td>125</td> <td>119</td> <td>0.6%</td> </tr> <tr> <td>中国</td> <td>132</td> <td>21</td> <td>27</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>四国</td> <td>106</td> <td>13</td> <td>18</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>九州・沖縄</td> <td>309</td> <td>202</td> <td>218</td> <td>1.1%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2,149</td> <td>36</td> <td>457</td> <td>2.2%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>21,628</td> <td>19,136</td> <td>20,401</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1月～12月にて集計。 ※その他…未記入の他に、外国人を含む</p>		2019年	2022	2023		来場者(名)	来場者(名)	来場者(名)	%	北海道	70	20	18	0.1%	東北(北)	33	8	6	0.0%	東北(南)	149	106	97	0.5%	北関東	690	112	66	0.3%	都内	11,426	14,418	15,149	74.3%	南関東	5,367	3,757	3,873	19.0%	中部(東海)	619	194	243	1.2%	中部(上信越)	274	124	110	0.5%	関西	304	125	119	0.6%	中国	132	21	27	0.1%	四国	106	13	18	0.1%	九州・沖縄	309	202	218	1.1%	その他	2,149	36	457	2.2%	計	21,628	19,136	20,401	
	2019年		2022	2023																																																																												
	来場者(名)	来場者(名)	来場者(名)	%																																																																												
北海道	70	20	18	0.1%																																																																												
東北(北)	33	8	6	0.0%																																																																												
東北(南)	149	106	97	0.5%																																																																												
北関東	690	112	66	0.3%																																																																												
都内	11,426	14,418	15,149	74.3%																																																																												
南関東	5,367	3,757	3,873	19.0%																																																																												
中部(東海)	619	194	243	1.2%																																																																												
中部(上信越)	274	124	110	0.5%																																																																												
関西	304	125	119	0.6%																																																																												
中国	132	21	27	0.1%																																																																												
四国	106	13	18	0.1%																																																																												
九州・沖縄	309	202	218	1.1%																																																																												
その他	2,149	36	457	2.2%																																																																												
計	21,628	19,136	20,401																																																																													
<p><b>社会的意義:</b> 地域からは「オンリーワンのプーク人形劇場があること」が、このエリアの一番の特徴」との声を頂きます。「週末に孫が遊びに来るのですが、何か公演がありますか？」との問い合わせも多い劇場です。本事業のみならず、非営利目的のWSも多数開催、大都市においても少子高齢化が進む中、地域に潤いを与え、世代をつなぐ活動を数多く展開しています。</p>																																																																																
<p><b>経済的意義:</b> 上記活動による地域活性化と共に、遠方からの来場者は宿泊滞在することも多く、一定以上の経済効果があることが推察できます。(上記「プーク人形劇場地域別年間来場者数」参照)</p>																																																																																

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

専門人形劇場ならではの国際的で多様なプログラムを展開し、下記の目標をそれぞれ設定しました。コロナ禍により減少した、家族一緒に芸術鑑賞の機会を取り戻し、コロナ以前の実績を取り戻すことを目標としていました。5月7日まで、感染防止対策としての定員制限(最前列1列削減)をしなくてはならず、年間来場者目標は達成できませんでしたが、それ以外の目標は全て達成することが出来ました。

目標達成状況は、以下の通りになります。

#### 《公演事業》

<目標1>年間 21,000名以上。(2019年実績:21628名) → (目標未達) 年間来場者 20,401名。

※2023年5月7日までの定員削減がある中、大いに善戦したのではないかと評価しています。

<目標2>事業No.1~3の合計入場者目標 4,874名以上、観客動員率80%以上

→ 【目標達成】 入場者 4,978名 観客動員 89.79%

<目標3>観客満足度「大いに満足・満足」85%以上、新しい観客層(新規来場者)の獲得45%以上

→ 【目標達成】 満足度 98.5% 新しい観客層 45%

<目標4> 賛助会員の拡大 【目標】 年間通じて5%以上、20名の拡大 → 【目標達成】 新入会者 23名

<目標5>新しい協力者の獲得(共催・協力・協賛・後援団体)2021年度実績13団体以上

→ 【目標達成】 15件

事業No.1 <目標>入場者752名/【目標達成】 752名 ※8月15日(愛知県芸術劇場)台風7号上陸の影響あり

No.2 <目標>入場者3,940名/【目標達成】 4,043名

No.3 <目標>入場者180名 /【目標達成】 236名

#### 《人材養成事業》

<目標1>参加者数160名 → 【目標達成】 225名 達成率140%

※特必事項/事業No.1では発表会観劇者が目標値を大きく上回りました。(目標40名/実績78名)

<目標2>満足度 90~95%/【目標達成】 100%

(満足度/満足・大変満足:No.1:100%、体験100% No.2:100% No.3:100%)

<目標3>実演家・ファシリテーター・サポーターなどの育成及び研究

<目標4>担い手の育成

<目標5>講座で得た「学び」活用状況

<目標3~5>【目標達成】 追跡調査 「本事業での学びを自身の活動に活かしたか？」

No.1:66.7%、No.2:100%、No.3:25%

#### 【総表】(自己評価)

全事業通じ、参加者の満足度が極めて高い取り組みとなったことが伺えます。また、次回も参加したい・来場したいと希望する声は、ほぼ100%でした。次年度以降の再演や巡回公演へと弾みをつける取り組みであったと評価しています。人材育成事業において、特筆すべき点は、事後調査から、参加者が事業での「経験・学び」を、図書館・保育現場などで、実践的に活用している実態が伺えます。有効性が極めて高い事業だったと、自己評価しています。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

概ね全事業を当初の計画通りに実施することが出来ました。

**【公演事業】**《事業 No. 1》家族そろって楽しんでいただけるよう「夏休み」期間を公演時期として、実施しました。初めて臨んだ愛知県芸術劇場での主催公演では、「夏休みファミリープログラム」企画となり、いずれの公演も満席の予約を頂いた。公演最終日、台風7号上陸の影響により、公共交通の計画運休を受け、100名を超えるキャンセルが生じた事は残念であったが、事業期間としては適切であったと、自己評価しています。

《事業 No. 2》人形劇団プーク「子どもの劇場」としての取り組み。可能な限り長く、数多くの公演回数を取り組めるよう計画して臨みました。観客動員目標を超えたことから、適切な事業期間とであったと評価しています。

《事業 No. 3》「平和企画」としての公演は、集客に苦戦する傾向があります。そんな中、公演実施日をプーク人形劇場の誕生日である11月26日に行い、プークの歴史と共に平和を求める集いとして臨みました。会場も満席となり、目標を達成したことから、適切な事業計画と設定期間であったと評価しています。

**【人材養成事業】**《No. 1》予定通りの実施ができました。保育・幼稚園の研修として参加したいとの、幼児教育の現場からの要望に応じて、会期を増やして臨み、平日にも開催しました。適切な事業計画だったと評価しています。《No. 2》2部制で開催したことにより、参加者が自身のニーズに合わせての参加を可能とし、参加者数の増加につながりました。また保育園・幼稚園の研修制度を活用しての参加者が見られたことから、内容・日程等において適切な事業計画だったと評価する。《No. 3》公募から即時定員となり、適切な実施期間と評価しています。今後に向けて、実施回数の拡大を図り、より多くの方々の参加を受け入れていきたいと思えます。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

3年以上続いたコロナ禍からの回復を目指しての一年間でした。特に公演事業 No. 1 に関しては、2020年より再三にわたり延期を繰り返し、本年度ようやくの公演実施となりました。新型コロナウイルス感染症は、5月より5類感染症への引き下げとなりましたが、事業を予定通り実施するためには、感染防止対策は必須でした。あらゆることを想定し、これまで学んだ知識を集約して臨みました。感染防止対策費用は予算的にも大きな負担となりましたが、計画段階から準備を重ねることで、適切に予算を確保することが出来ました。

各事業の予算し以降状況は以下の通りです。

**公演事業：要望時の93%にて執行**

**人材育成：要望時の98%にて執行**

全事業通じて、早い段階からの準備を重ねることで、予算的にも効率的な事業展開が出来、計画通りに事業を実施することが出来ました。

感染防止対策に関しては、本事業の要望時には計上していなかったが、別事業(経産省・JLOX補助金事業)の採択を受けることで、感染防止対策費を改めて獲得することが出来ました。

加えて、デジタルコンテンツを活用することで、当初の計画以上の世界発信を行うことが出来ました。別事業(経産省・JLOX補助金事業)を活用して、本事業の優れた公演成果を世界へ向けて広く発信することが出来ました。(事業番号No. 1)

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

新宿・渋谷地域は、大小様々な劇場が点在、劇場文化が比較的発展した地域ではありますが、年間通じて家族がそろって楽しめる劇場活動を行っている施設は多くはありません。「子どもの殿堂」「世界の窓」「第三の広場」としての劇場機能を、より強く発揮していくことが求められています。

プーク人形劇場は、当時の東京都知事からの特別許可を頂いて初めて建設することが出来ました。この背景には、首長・国会議員はじめたくさんの方々からのご支援とご協力を頂いたことと、劇場建設当初より「劇場の使命」を明確に唱えたからにほかなりません。そして、劇場建設への支援の輪は、国内外のネットワークという財産として、今も発展的に引き継がれ、年間を通じた多様な事業展開を可能にしています。

本年度も、これまでの劇場の財産である、内外の各団体とのネットワークを最大限活用し、人的マンパワーを結集して臨みました。具体的な事業展開については、以下の通りです。

#### 《公演事業》

**【No. 1】** コロナ禍による再三の延期を余儀なくされていましたが、本年度ようやく実現することが出来ました。ブルガリアの人形劇界との国際交流は半世紀以上の歴史があり、その深い友情と信頼関係のおかげと実感しています。また今回は、これまでの招聘公演から、国際共同制作公演へと、創造の歩みを前進させた新機軸となる取り組みでした。招聘期間は1か月。うち2週間の稽古を要するため、公演稼働できる期間は2週間と、短い公演期間でしたが、プーク人形劇場公演に加えて、愛知県芸術劇場での初めての主催公演を行い、さらに他2劇場での巡回公演も行いました。（巡回公演は他事業）。「世界の窓」としての劇場機能を最大限発揮し、圏外へもその成果を波及させる事業であったと、評価しています。

**【No. 2】** プーク人形劇場を拠点とする人形劇団プーク公演。専属芸術団体の存在により、年間通じて多様なプログラムを展開することが出来ています。本事業では、内外からも評価を頂いている人形劇団プークの受賞作を中心に、可能な限り長期間公演を行うことに挑戦しました。

そして地域のイベントとのタイアップを図り、地域連携に注力して臨みました。官民様々な団体・機関・個人との信頼関係によって劇場は支えられています。劇場機能をフル活用して挑み、地域をはじめ全国からの「期待と負託」にこたえる事業であったと自己評価しています。

**【No. 3】** 平和を求めるプークの歴史を背景に、これまでも様々な実演家とのコラボレーション企画を実現させてきました。本事業では、「新内」岡本文弥氏の作品を元に、岡本宮之助氏と人形の共演を行いました。また、新しい実演家（団体）と協働する機会も創出しました。劇場と劇団が緊密な連携を図ることで、劇場機能を発展させた取り組みとなり、劇場の事業展開が豊富で多様な広がりを持ちました。

#### 《人材養成》

プーク人形劇場では、人材育成事業も開設時より取り組んできました。「人形劇教室」「人形セラピー」等名称は変化してきましたが、人形劇専門家としての知見を結集し、講座内容を発展させて臨んでいます。

本年度事業では、子どもを支えるファシリテーターの育成・考察を目的に行い、体験コースへの参加も可能とすることで参加者への実践の場も提供しています。次世代の人形劇人の育成を目指し、専門性の高い講師を配置しています。

《総表》 劇場機能を最大限発揮した事業展開をしていくためには、当劇場の財産である、内外芸術家（団体）との人的つながり（ネットワーク）や、団体の歴史、実績・技術、経験、事例、事象も含めて、次世代が「自分の言葉」で理解し、体現していくことが極めて重要となっています。すべての事業を通じて、この点に注力して臨み、次年度以降につながる大きな成果を上げる事業であったと、自己評価しています。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### 《公演事業》

【事業 No1】 コロナ禍より再三の延期を乗り越えての公演であったことと、国際的な取り組みとして、新聞記者による二日間の密着取材など、マスコミからも注目を集めた公演になりました。ブルガリアからは、両国の国際交流の様子を伝えるためのドキュメンタリー映画撮影チームも来日。全行程において入念な取材が行われました。取材内容は、ドキュメンタリー映画として公開されます。（2024年9月ブルガリア）

日本とブルガリアの人形劇を通じた半世紀を超える交流の様子を伝えるドキュメンタリー映画は、国際的にも歴史的にも価値ある作品として、大いに期待しています。

（予告動画を当劇場イベントページにて公開中 <https://youtu.be/2JdreGwHg0s>）

加えて、公演の成果を全国へ波及させるべく、当劇場公演に加えて、国内3劇場での巡回公演も実施しました。このような事業展開は、国内の芸術文化の振興・発展に寄与する事業であったと評価しています。

次年度以降の展開に大いに期待しています。

### 事業 No. 2

本公演では宮沢賢治作「ありとこの鹿踊りのはじまり」を人形劇化した「霧と風からきいた話」と、ステューエフ原作の「ひとまねアヒル」の連続公演と、人形劇団プークの不朽の名作「12の月のたき火」を、人形劇団プーク子どもの劇場として取り組みました。近隣地域からも、「オンリーワンのプーク人形劇場があることが、この一番の特色」との声を頂きます。官民様々な団体・機関・個人・内外の実演家と共に望む公演事業として、地域貢献にもつながりました。

### 事業 No. 3

「平和企画」のような公演事業の特徴は、公演当日の鑑賞だけでは完了しません。

告知開始から本番に向け、各作品との関連の中から戦争と平和を題材にした記事を SNS や DM で配信。舞台鑑賞の前に作品への関心を引き出し、作品の背景にある「戦争」「平和」について考えてもらう機会を創出しました。公演終了後には詳細な作品ガイドを公開。都内近隣の平和関連施設についても紹介、継続的に戦争と平和について学び考える機会を提供し、厚みのある観劇体験となるよう工夫しました。「平和」を願うことが、特別なことではなく日常のそばにあることだと感じてもらえる機会へと発展させることにより、舞台鑑賞にとどまらない活動として、文化芸術の役割を改めて問う取り組みとなったと、自己評価しています。

新聞マスコミへの働きかけによる記事掲載は、宣伝告知の目的というよりも、事業の社会的、国際的価値を広く伝播することに役立ちます。また、SNS やイベントページ、アーカイブ配信の活用により、直接公演に参加できない方へも、作品の魅力を届けていけるよう、工夫をしました。

### 《人材養成》

参加者の増加に伴い実施回数を拡大して臨んでいます。「子どものための文化施設」として、子どものための舞台芸術活動の担い手（実演家・ファシリテーター・サポーター）の育成を目指す本事業は、即実践につながる講座として、高いニーズがあります。また、参加者がそれぞれの現場にて、講座で学んだことを実践していることから、本事業が、人形劇を通じた文化・舞台芸術の振興・発展につながっていることを実感しています。都内において、人形劇に通じたファシリテーターの育成事業を行う劇場は、他に例がなく、アーティストによる社会貢献として今後ますます注力していきたいと実感しています。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当劇場は本年度で誕生 53 年を迎えています。歴史ある劇場にとって、次世代へ劇場の歴史や国際的なネットワークを発展的に継承していくことは、大きな課題となっていますが、事業を通じて克服されつつあります。

#### 《次世代への継承》

若い力の投入は事業の発展につながります。また、劇場の歴史や実績を、事例、事象も含めて、次世代が「自分の言葉」で、劇場の魅力を伝えていくことは、今後の事業を発展させていくためにも極めて重要です。そこで、経験あるシニア世代の定年による機械的な退職を避け、若手とともに働き続けられる職場環境の整備に注力しています。その結果、シニア世代は、仕事を通じて、団体の歴史や思想、技術から様式までを、エピソードを含めて次世代へ継承し、若手は新しい発想とデジタル技術を駆使するなど、事業展開が豊かになりました。考え方や世界観が異なる若手やシニア世代ですが、互いに違いを力に共に活躍できるよう、相互に尊重しあえるように、工夫を凝らして事業に望んでいます。

#### 《魅力ある事業展開と組織強化》

世間一般水準に満たない賃金の基、必要な人材確保と人材養成は、継続的な課題になっていますが、魅力ある事業を継続的に展開していくことで、人材確保に努めています。計画通りに新規雇用者の獲得を進めていくことが出来ました。現在適正に職員(人員)配置が確保できるようになりました。

**2014 年従業員数 6 名(平均年齢 56.5 歳)**

**2023 年従業員数 11 名(平均年齢 55.5 歳)** ※2014 年時の従業員の退職者はなし。

優れた事業を継続的に行うことで、従業員の拡大＝組織強化が数としても表れていることが見て取れます。今後の課題は、現在活躍中のシニア世代が引退するときに備えた人材(職員)の確保が必要となります。

一方で、財政的な課題は、公立館ではない民間劇場として常に重たいものがあります。

施設・建物の経年劣化は避けることが出来ず、運営を継続していくための改修工事への資金確保はいつも課題となっています。三百人劇場、前進座劇場、俳優座劇場、アゴラ劇場と都内にある芸術集団が建設した劇場の閉館が相次いでいます。商業的に成り立ちにくい民間劇場へは、公的または民間の特別な支援策の必要性を痛感しています。

そのような課題を抱えながらも、「有限会社劇団プーク」「有限会社スタジオノーヴァ」「有限会社プーク人形劇場」との緊密な連携のもと、施設の管理営繕に務め、計画的に改修工事を行うことが出来ています。毎年の建物検査に加え、建物耐震診断、外壁改修等を実施、安心安全な文化施設として、建物の整備・設備の更新に務めています。